

# 隨泉寺寺報

平成19年(2007年) 2月号 第438号

082-892-0217 <http://www.zuisenji.com/>

## 浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺 仏婦講座

講師 加計 正覚寺 清胤弘英・祐子師

### 講題 「あなたにあえたから」

#### 【本来面目】

『春は花 夏ほととぎす 秋は月  
冬雪さえて 冷(すず) かりけり』 道元禅師

【通釈】春は桜の花。夏は時鳥。秋は月。

冬は雪が冷え冷えとして すがすがしいなあ。

【語釈】 本来面目 自然が本来有している実相。道元は座禅によって「自然に身心脱落」し、「本来の面目」が現前することを説いていた(『普勸坐禅儀』)。

安倍総理のキャッチフレーズは「美しい国、日本」です。どこかで聞いた様な気がすると思っていましたが、川端康成がノーベル文学賞を受賞したときのスピーチが【美しい日本と私】という題でした。そのときに彼が引用したのが、冒頭の道元禅師の句です。日本の四季のすばらしさを詠んだものです。あるがままにそれを認める視線です。暑いときは暑いように、寒いときは寒いのがよろしい。それを親鸞聖人は自然法爾といわれたのです。

#### 2月の法座予定

- 2月 7日.....如月忌
- 2月 11日.....ダーナの日 掃除 高部
- 2月 14日 昼席午後1時より.....仏婦講座
- 2月 14日 夜席午後7時半より.....出張法座 高部(岡埜人士氏宅)
- 2月 15日 朝席午前10時より.....会員追悼法要 おとき
- 2月 15日 昼席午後1時より.....仏婦講座

## 第47回仏婦講座

2月14日・15日と第47回仏婦講座を開催します。15日の朝席は物故会員の追悼法要を勤めます。今年は6名の方がお浄土に還られました。いづれもなつかしい方々です。生前を偲びながら大切に勤めさせていただきます。

住田 佳代子 81才 平成18年4月16日 細工 ナナエ 88才 平成18年8月5日  
 植木 カズエ 86才 平成18年8月16日 灯明田 ウメノ 76才 平成18年10月7日  
 森本 米子 77才 平成18年12月11日 南井 昌子 85才 平成19年1月29日

### 「ダーナ」の意味

「布施」という言葉は、サンスクリット語の「ダーナ」からきています。檀那(だんな)寺とか、檀家(だんか)という言葉も、ここからきています。「ダーナ」とは「あまねくほどこす」という意味で、仏教の理想世界を実現するための行の一つです。

布施には、法施(ほうせ)、財施(ざいせ)、無畏施(むいせ)の三つがあります。法施とは、人が正しい生き方をするためにはなくてはならない仏法を説き、無形の精神的なほどこしをするもので、これは僧侶のつとめです。

この法施にたいして、感謝の気持ちを、金品であらわして、お寺へほどこすことを財施といいます。無畏施とは、不安や畏(おそ)れを抱いている人にたいして、安心のほどこしをすることで、今でいえば、ボランティア活動です。

浄土真宗本願寺派仏教婦人会総連盟では、毎年2月の第二日曜日を「ダーナの日」と定めて、全国各寺の仏教婦人会が、福祉施設訪問や難民救援など、幅広い布施の実践活動を行っています。



### 御礼

永代経懇志 金 拾萬円 原 富士枝 殿 故 原 利男様 特別永代経志として

### 御礼

門信徒会へ 金 一封 原 富士枝 殿 故 原 利男様 香典返しとして  
 金 一封 岩本 一二三 殿 故 岩本 東一様 香典返しとして

# 東井 義雄 カレンダー 2月

## この寒さに耐えぬいて 美しい花を咲かせる蕾たち

寒中のきびしい寒さの中の  
ぼたんの蕾

雪も降ってくるのに  
まっすぐに天を指向している  
そのおがみたくなるように  
厳肅さ

あの 大らかな やさしい花が  
こんな きびしい厳肅な

雪の中から  
生まれ出てくるというのか  
きびしい寒さに

耐えている寒中の蕾たち  
このきびしさに 耐えぬいて  
蕾たちは やさしく 美しい  
ふくよかな

花を咲かせる かおりを放つ  
あまりに保ごされた菊は 菊の香を失う

人間は  
きびしさに であうと  
美しさを 失う

やさしさを 失う  
ふくよかさを 失う  
かおりを 失う

きびしさを 人間成就の 栄養にしなければならないのに……  
それを蕾たちが、教えてくれているのに……。



この寒さに耐えぬいて  
美しい花を咲かせる蕾たち

## 私は怒っています。

何とか体重を減らそうとおいしそうなケーキにも目もくれず、わざわざ買ってきてくださったお饅頭にも手を出さず、晩酌もビールを一本にしたにもかかわらず、減るところか少しずつ増える体重に、今年も新しいズボンを作らなくてはならないと、あきらめていました。

そんな時に、[好きなものを食べてそれで一週間に2キロ減量という夢のようなダイエット、【納豆でやせる】]

これにかけていました。近くに大きなスーパーがあり、ちょっと走れば買うことができます。しかし放送の次の日からは、売り切れ状態になっていました。ご存知【あるある大辞典】です。

これまでも『味噌汁がいいといわれれば、味噌汁を、ヨーグルトがいいといわれればヨーグルトを、手軽に出来る運動というの、試してみました。そのつどあまり効果がなく、途中で挫折してしまい、これは決して方法が悪いのではなくて、長続きしない僕が悪いのだと思って、自分自身をせめていました。これはテレビ局が科学的な検証をして発表しているのだから間違いはないと信じて……。あんまりだ！

これは単なる【納豆】だけのことでなく、今までやってきたことすべてを否定しました。いやそれどころか信ずるという行為そのものを、否定しました。よく考えてみると信じるということは、こちらからの**はからい**ではありません。信じさせられるのです。今までの関係の中で『あの人が言うなら間違いはない、あそこがするなら心配ない』と今までの信用の上に信じさせられているのです。私が賢く

て信じるというよりは、相手から信じさせられているのです。それは私の思い込みで信じていたのですが、私の思い込みほどいい加減なものはありません。時と場所によって変わっていくようなものに、普遍的に間違いのないものなどありません。

親鸞聖人は《よろずのこと そらごと、たわごと、まことある事なき》とおっしゃっています。《ただ念仏のみぞまこと》と。

